

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 上津役 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

- (2) 児童質問紙調査

#### 児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

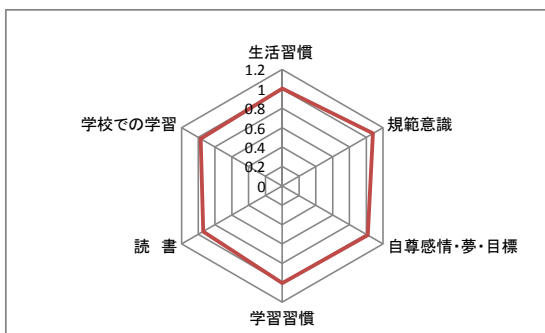
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国・福岡県平均正答率を上回っている。 ・言語に関しては、5ポイント以上上回るものの、「読むこと」「書くこと」に関する問題は、全国平均正答率と同等である。	全国平均正答率との比較 <b>上回っている</b>
	よくできた問題	・漢字やローマ字の読み書きの問題は、正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・目的や意図に応じて 収集した情報を関連づけながら考える問題は、正答率が低い。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国・福岡県平均正答率をわずかに上回っている。 ・「読むこと」を問う問題は、平均を上回るものの、「書くこと」に関する問題は、全国・福岡県平均正答率を下回り、課題が残る。	全国平均正答率との比較 <b>上回っている</b>
	よくできた問題	・目的に応じて 文章を選んだり比べたりしながら 内容を的確に押さえて読む問題は、正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・グラフや表を元に 分かったことや自分の考えを書く問題は、正答率が低い。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国・福岡県平均正答率を上回っている。 ・「数と計算」「量と測定」に関する問題は平均を大きく上回り、「図形」に関する問題も概ね理解できている。「数量関係」に関する問題に課題が残る。	全国平均正答率との比較 <b>上回っている</b>
	よくできた問題	・小数の除法の計算をする問題は、正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合に関する問題は、正答率が低い。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国・福岡県平均正答率をわずかに上回っている。 ・「数量関係」に関する問題は平均を若干下回っているが、無解答率が低く、記述式の問題は全ての領域において平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 <b>上回っている</b>
	よくできた問題	・示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述する問題は、正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・単位量当たりの大きさを求めるために必要な情報を判断する問題は、正答率が低い。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食を食べたり、同じ時刻に起きたり寝たりすることなどの基本的な生活習慣は全国平均以上である。</li> <li>・家庭での学習習慣は、全国平均に比べ定着している。今後は、授業の復習だけでなく予習にも取り組む必要がある。</li> <li>・自分にはよいところがあるともっている児童や将来の夢や希望をもっている児童は全国平均よりやや多い。今後もそれぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。</li> <li>・家庭での読書習慣の更なる定着に取り組む必要がある。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

○特設時間の有効活用 ～ 月(朝の学習)火(ひまわりタイム)水(朝の学習)木(計算タイム)金(視写タイム)の充実を図る。読書タイムの充実。  
○各学年の実態に応じた「書くこと」「読むこと」の習慣化 ～ 日記を書く。一人一冊自分の辞書を机に置く。ひまわり暗唱をより進める。百人一首を行う。国語科や算数科等の時間で身につけたことを総合的な学習の時間などで活用できる学習活動を組む。等

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

○さらなる「生活がんばりカード」の推進  
・昨年度から今年度にかけての「生活がんばりカード」の成果を発信し、基本的な生活習慣の大切さを家庭に啓発していく。  
・学年通信等で家庭学習の内容を知らせるとともに、計画的な家庭学習の取り組み方をもう一度児童と確認し、定着を図る。